

# とらいあんぐる

～一人ひとりが幸せを実感できるまち～

【編集】＝「とらいあんぐる」編集員

【問合せ】＝本庁企画政策部 コミュニティ課  
男女共同参画グループ  
☎(23)5111(内線 4612)

## ダイバーシティ(多様性)を考える

去る7月4日(土)、国際交流センターにおいて、「男女共同参画フォーラム in 薩摩川内」が開催されました。これは、市民一人ひとりが多様な生き方を選択することができ、健康で共に支え合うまちの実現に向けて実施されたものです。



主催者あいさつ(岩切市長(左)と富迫実行委員長(右))

今回は、このフォーラムの内容について紹介します。

### ■基調講演

国の審議会委員などを歴任されている渥美由喜氏(民間シンクタンク研究部長)による基調講演がありました。

同氏は、自身の子育てや介護の実体験を交えながら、「人口が減る高齢化社会では、女性をはじめ、多様な人が活躍できる環境づくりが重要」と力説されました。

時折、会場が笑いに包まれる中、実例とヒントを盛り込んだ奥深い内容に話が及ぶと、参加者は熱心に耳を傾けていました。

### 【講演概要】

- 多様な人材が活躍できる環境づくりには、「自分には関係ない」といった傍観者の考えを持つ人への働きかけが必要である。
- 女性を本気にする5つの「キ」とは、①機会を与える ②鍛える ③期待する ④キャリアマネジメント(経

歴・管理) ⑤きれいな空間の提供である。

○男と女は、車の両輪のようなものであり、子育てや介護は「命のバトナリレー」。ダイバーシティ、ワークライフバランス(仕事と生活の調和)は、人生における「良かった」づくりであり、「幸せ」の道しるべとなる。

○「共感」の連鎖で環境を変えることができ、気付きがその鍵となる。即効性はないが、漢方薬のように、時間をかけてジワジワ効いてくる。



○「良かった」づくりを、自分でできることから探そう。

○「支援する人、される人が固定化されるのはよくない」という話に共感を覚えた。

○最近、親と話をしていないことに気付いた。さっそく話をしようと思った。

○今や、イクメン育休は当たり前であるかのように聞く(耳に入ってくる)が、いい風潮だと思う。自分の子育て時代も、そうあってほしかった。

\*第1分科会でのつぶやき(講演を聞いて思ったことなど)

## 第1分科会

### お茶を飲みながら、多様な想いにふれてみよう

この分科会では、参加者が6つのグループに分かれ、多様性トレナーの高崎恵氏(オフィスビューア所属)の進行に沿って進められました。

- まず、意見交換をする際の約束事として、次のことを確認しました。
- ・他の人の意見を否定・非難しない。
- ・他の人と違うことを恐れない。
- ・他の人の意見をさえぎらずに聞く。
- ・時間と秘密を守る。

この他、①多様性を認め合うからこそ、楽しく活発な意見交換ができること ②自分の考えや気持ちを相手に伝えるには、YOUメッセージではなく、「私」を主語にしたIメッセージを心掛けることが大事であること ③違う立場にある人と対話すること、新しい道が開けることなどの説明もありました。

グループワークは、自己紹介から始まりましたが、初対面の方ばかりとは思えないほど、終始和やかな雰囲気の中で行われました。

対話の場が増えることで、共感する人を少しずつでも増やすことができます。

普段の話し合いでは、AとBの意見があった場合、多数決の原理で、



ともすると多数派の意見が有利に働きがちです。しかし、対話の中に「相手を尊重する気持ち」を加味することで、A B双方の意見から、Cという新しい発想が生まれることを学びました。

## 第2分科会

### 女性の活躍を応援しよう

本市スマートハウスで行われているフューチャープログラム「子育てと働き方の未来」をテーマにした取り組みを、スマートハウスモデル実証事業コーディネーターの塚原諒氏(UDS株式会社・地域コーディネイト部所属)に紹介してもらいました。

その後、4つのグループに分かれて、「未来の言葉をつくる」をテーマにしたグループワークを行いました。

このワークでは、本市で理想の子育てと働き方を実現するために、「こんなことをしてみたい」「こんなことができます」といった未来をつくる、前向きなアイデアを出し合ってもらいました。

自己紹介の後、各グループで「書く人・タイムキーパー(時間を計る人)・発表者」を決め、意見交換を開始。当初、緊張している様子の皆さんでしたが、自分の意見を安心して自由に話せる環境とあって、多くの課題やアイデアが出されました。一部の例ですが、

- ・コミュニティで保育園運営
- ・保育園送迎サービス
- ・休める職場環境づくり
- ・24時間保育・学童



・困っている人が、困っていると言える地域づくりなど、各グループでまとめた内容が発表されました。

この分科会では、「誰かが何とかしてくれる」ではなく、「自分たちの暮らしを、自分たちの力で変えていく」ためのアクションを起こすことが大事であること。また、実現不可能と思える事でも、言葉に出す事によって、実現に近づきやすくなることを学びました。